

### 第3回 高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会（議事概要）

- 日 時：令和5年6月23日（金）15時00分～16時40分
- 会 場：興和ビル 10階 大会議室
- 出席者：別添のとおり
- 内 容：以下のとおり

#### 1 議事項目（資料に基づき、事務局（新潟県交通政策局）から説明）

##### （1）第2回検討委員会の議事概要等

- ・高速化手法の詳細確認（（案1）信越本線「ミニ新幹線化」の配線略図による高速化手法の詳細、工事のステップ案、（案2）信越本線「既存線改良による高速化」の配線略図による高速化手法の詳細等）
- ・今後の調査方針等について（需要予測の算定方法、次年度の調査内容）

##### （2）高速化手法の調査結果

- ・令和4年度の（案1）及び（案2）の調査結果の振り返り
- ・他の高速化手法として、（案3）北越急行ミニ新幹線化・長岡⇄柏崎シャトル化、（案4）トキ鉄ひすいラインミニ新幹線化の概略ルートを提示  
※委員から既存線の活用を含めて幅広に検討した方がよいとの提案があったことを受けて対応  
⇒案3及び案4を含めて幅広に検討することで了承

##### （3）今後の調査方針等について

- ・今後調査・検討し、報告させていただく事項、今後の検討委員会及び調査・検討等のスケジュールについて説明

#### 2 意見交換（委員からの主な発言項目（概要））

- 将来のために空間を空けておく、あるいは既存部分の活用を念頭に入れて（他の高速化手法を）検討することは合理性がある。
- 国土強靱化や地域活性化を含めて、広い目で見えて評価する必要がある。
- 国土強靱化の議論において、どういうエリアの、どういう方々に便益がいくのかを考慮する必要がある。
- 在来線を活用して高速化を図ることで、貨物輸送や在来線輸送を痛めることがあるので、将来の地域の姿を総合的に考えながら検討しなければいけない。
- 既存のインフラを活用して整備を抑える視点も大事だが、効果が一番出るにはどうしたらいいかなど、少し広い範囲で議論してもいい。
- 地域住民に、こういうことをやると、どういうメリットがあるのかという議論が必要。
- 交通というものはあくまで都市の装置の一つであり、まちづくりにおいてありたい姿や実現したいことを掲げた上で、それに対して求める機能をお聞きしながら検討していくことが大切。
- 交通の利便性という点で考えると、今ある信越本線の利活用を議論するべき。

## 高速鉄道ネットワークのあり方検討委員会 委員名簿

(順不同、敬称略)

団体名	職名	氏名	備考
梶山女学園大学 現代マネジメント学部	教授	大串 葉子	委員長
富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科	教授	金山 洋一	
株式会社JTB総合研究所 西武文理大学 サービス経営学部	客員研究員 教授	波潟 郁代	欠席
一般社団法人 新潟県商工会議所連合会	専務理事	早福 弘	
新潟経済同友会	専務理事 事務局長	藤澤 成	欠席
株式会社日本政策投資銀行	新潟支店長	和田 雅彦	
株式会社第四北越銀行	コンサルティング 事業部長	長谷川 徹	欠席
長岡市	都市整備部長	水島 正幸	WEB
上越市	総合政策部長	野上 伊織	
柏崎市	総合企画部長	井比 孝広	
新潟県	交通政策局長	太田 勇二	
東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社	企画総務部 経営戦略ユニット ユニットリーダー	吉田 勤	オブザーバー 欠席
西日本旅客鉄道株式会社 金沢支社	地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	オブザーバー
国土交通省北陸信越運輸局	鉄道部長	笠原 由之	オブザーバー